

## 「いのちの灯の集い」開く

### 生命尊重の誓い新たに

昭和58年に全国運動で建立された「老人医療費無用化発祥の地」の記念碑を囲む「いのちの灯の集い」が11月22日、沢内病院前庭で開かれました。NPO法人「輝けいのちネットワーク」の主催によるもので、町内外から関係者50人が集い、生命尊重の誓いを新たにしていました。

このあと、会場を老人福祉センターに移して、元沢内病院の増田進さんなど11人の関係者によるリレートークが行われま



記念碑周辺の芝生は雪でうっすらと覆われていたが、いのちの灯の碑前集会は好天に恵まれました。

### 生命行政を劇で発表

沢内一小6年生

た。深澤晟雄の会からは加藤和夫理事が登壇して、深澤晟雄資料館1年の歩みを報告し、来年は老人医療費無料化50年記念の特別展を予定していることなどを紹介しました。  
来年の「いのちの灯の集い」は、昭和58年に建立除幕した記念日12月1日に行うことが主催者から報告されました。

沢内第一小学校6年生は、10月31日に行われた学習発表会で「いのちの灯よ永遠に」と題して、深澤村長の生命行政を劇にして発表しました。当時の悲しい歴史に立ち向かった深澤村長のすゝさ、村民一人ひとりの頑張りを脚本にして沢内に生まれ育ったことを誇りにしよう」とクラス8人の総出演で劇を組み立てました。

フィナーレは、深澤村長のように、どんな困難にも立ち向かう気持ちをもつて生きていきますと呼びかけると、会場から感動の拍手が湧き起こりました。



小学校最後の発表会にふさわしいフィナーレはオールキャストの決意表明に大きな拍手が贈られました。

### 深澤晟雄資料館の冬季開館

～年末年始の休み～

2009年12月28日～2010年1月1日まで

～1月は通常開館～

2010年1月2日～2010年1月31日まで  
(休館日/12日・18日・25日)

～予約受付のみ開館～

2010年2月1日～2010年3月31日

# 「いのちの山河」

## 13日に西和賀で再上映会

### 長谷川さんのトークショーも

12月13日(日)、「いのちの山河」の再上映会が銀河ホールで

3回の上映日程で行われます。

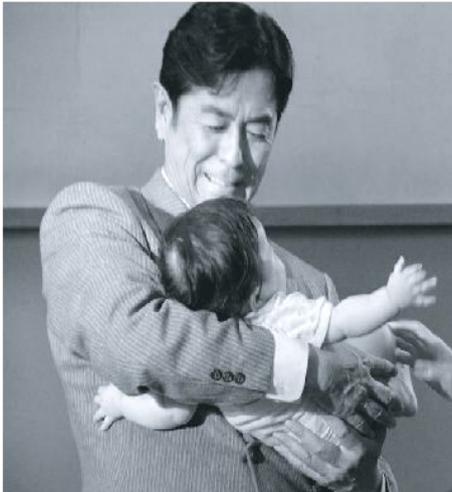
午前10時 舞台挨拶 上映会

午後1時30分 トークショー・

上映会

午後6時 上映会

前回10月の上映会のフィルムは16ミリ版でしたが、今回は35ミリ版で前回より明るく鮮明な映像となるようです。入場券は町内プレイガイドでお求めになれます。詳細は銀河ホール電話82-3240へ。



主役の長谷川初範さん  
(「いのちの山河」ホームページから)

### 「いのちの山河」上映案内

- 12.5 八戸市福祉会館  
広島市中区・サロンシネマ  
(12月11日まで)
- 12.6 倉敷市民会館
- 12.8 沼津市民文化センター小ホール  
上天草市・アロマホール
- 12.9 滝沢ふるさと交流館  
銚子青少年文化会館
- 12.11 倉敷市生涯学習センターホール
- 12.17 相模原市杜のホールはしもと
- 12.19 市川市民会館  
兵庫県民会館
- 2010年
- 1.7 大津市民会館
- 1.9 矢巾田園ホール  
玉村町文化センター

13日は銀河ホールに主役で

深澤村長役の長谷川初範さんを

お迎えしてトークショーが行わ

れます。そこで長谷川さんのプ

ロフィールをご紹介します。

本名・長谷川初範／生年月

日・1955年6月21日(54

歳)／出生地・北海道紋別市／

主な作品(映画)南極物語・沈

まぬ太陽 (テレビ)純情きら

り・行列48時間(舞台)ラスト

ノート・双頭の鷲など。普段は

自ら設計した山中湖にある山荘  
で新割りや庭木の世話をしている。

### 満足度ランキング1位に

毎週、新作映画公開初日に映画

館でのアンケートやモニター調

査を実施するシネマぴあの11月

16日付「満足度ランキング」で劇

映画「いのちの山河」が堂々の1

位を獲得しました。

東京・新宿武蔵野館では11月

14日から1カ月のロードショー

で公開中ですが、お客様の熱い支

持を受けて上映期間の延長が決

まったという事です。

### お客様との出会いから

#### 思いの深さ

そのお客様は、70代ぐらいの男性で小学1年生のお孫さんと入ってこられました。何故かそのお客様が気になりましたので観光で来られましたか。と聞いてみました。しばらく沈黙の後、お客様は「私は50年も前から深澤晟雄を知っています。この人を心の糧に今まで生きてきました。でも、なかなか来る事が出来ず50年たってしまいました。今ここに来れたのはこの子のおかげです。この孫が『温泉に行こう』と言うので、たまたま、温泉とここが近いことを知り50年ぶりに来る事が出来ました」と話してくれました。

その目は真っ赤に染まって、涙が後から後からあふれ出て、それを何度も手のひらで拭いていました。それを見て私はお孫さんに「大きくなったら車でおじいちゃんをまた連れて来てね」と言いました。おじいちゃん、ぼくが大きくなるまで生きてるかなって言ったので、絶対生きているから連れて来てねと再び言いました。そして、「スーパージいちゃんだね」ってお孫さんがおじいちゃんの手をぎゅっと握って見つめておりました。